



特定非営利活動法人 なんとなくのにお 通信

URL <http://www.nantonakuno.net/>

Mail info@nantonakuno.net

なんにわお出かけ企画・第1弾 — CCV見学&ランチに行こう! —

10月23日、電車利用組の5人は東武下今市駅に集合しました。今年の東武線、今市—鬼怒川間は蒸気機関車「大樹」が話題です。駅には機関車展示室まで出来ていて、普段車を移動手段にしている大人は変わりようにびっくり。でも、今回は鬼怒川とは反対方向、鹿沼までの小旅行です。25分の電車の旅を楽しみました。

新鹿沼駅に着き、現地集合組の7人と合流し、12人の参加者で「CCVウェルフェア」に向かいました。事業所は駅から歩いて5分弱。とてもアクセスの良いところにあります。

午前11時から「就労継続支援B型事業所」、「就労移行支援・トランジションセンター」の説明、高校卒業資格が取得可能な「CCV学園高等部」、自動車学校と連携した障がい者の自動車免許取得支援事業など多岐にわたる事業の説



見学を終えて、CCVレストランの入り口にて

明を受けました。参加メンバーからの積極的な質問にも答えていただきました。その後、実際に皆さんが働いている場所を見学しました。それぞれの個性に合わせ、作業環境を工夫しているところが印象に残りました。

ちょうどお昼になり、1階のカフェ「デリカフェ・ココボ」に移動して、各々好きなランチを注文しました。お店での補助作業が「ウェルフェア」事業の一部になっているというカフェです。無農薬農園での作業で収穫された食材もお皿にのっています。おいしいお昼を食べて解散しました。(西尾)

参加した小学生、中学生それぞれの感想を聞いてみました。

ランチはうまかった。見学した感想は、障がいを持った人や自分みたいに発達障がいがある人が働く場所があるんだなと思った。昔は差別があって仕事や就職できないことがあったが、今はそういう人が働く場所があつていいなと思った。(小)

ランチは良かったけど僕には量が少なかった。仕事は自分のペースを崩さず、ストレスがかからずに出来るところがいいかな。パソコンも集中できる環境だからいいと思う。学園は実際勉強しているところが見られなかったのでピンと来なかった。行けてよかった。(中)



デリカフェ COCOVO ランチセットから、好きなメニューを選んでいただきます！

目次

なんにわお出かけ企画#1	1
年間開所 240 日に向けて	2
ワカモノフェスタ 2018	2
活動報告	3
川むしたんけん隊・長畑川	3
こんな本はいかが・43	4

居場所のひとつ

暑い夏が終わり、いつの間にか季節は秋です。今年は曇りや雨が多く、お日さまの暖かさを気持ちよく感じる日が少ないように感じます。外の空気も冷たく感じるこの頃、10月26日の「つくって食べよう」はあったかい「焼きそば」でした。太麺・細麺、それぞれ個性のある焼き方と味付けで、とてもおいしく仕上がりました。(N)



年間開所240日に向けて — 要望書を提出 —

ふだんの居場所は月～金曜日の週5日に開いています。学校の長期休業中も火、金曜日の週2回は開所し、子どもたちの交流の場となっています。通信52号でお知らせしたように、「子どもたちや若者たちの生活リズムを維持するため、夏休みなどの間も開所できないだろうか」との利用者、保護者、スタッフからの意見を受け、今年の夏休みは、月曜日から金曜日まで毎日やってみることにしました。その結果、毎日居場所の利用がありました。人数は以下のとおりです。

	開所日数	延べ利用者数
7月	21 (昨年度: 16)	77 (昨年度: 37)
8月	19 (昨年度: 10)	54 (昨年度: 35)

作って食べるイベント(ジャガイモのチーズ焼き、フルーツポンチ)も開き、子どもたちの嬉しそうな笑顔がたくさん見られました。いままでも開いていた火、金曜日に加え、新たに夏休み中開所した日数は12日でした。

暑い夏でしたが参加者数は今までより増え、宿題に取り組む子も見られました。この夏の試行をふまえ、本年度後半は年末年始休暇を除き、冬休み、春休み中の開所(見積もり日数:8日)を計画しています。

この結果を受け、追加開所のための要望書を10月はじめ、市教委に提出しました。「現在の開所日220日を、来年度から長期休業中の開所に対応した240日に変更し、人件費および施設費の増額をお願いします」という内容です。来年も引き続き夏休み、冬休み、そして春休みの毎日開所ができればと考えています。(白井)

子育て・親育ちの茶話会

場所：子どもの居場所(日光市平ヶ崎)
日時：毎月第2月曜日(午前10時～12時)
次回の予定はお問い合わせください。

参加費：300円(お茶代)

同じ悩みを持つ親御さん同士、気持ちを許し合って、情報や悩みを分かち合いましょ。 「一人で悩まず、みんなで！」を合い言葉に。(Tel: 090-3227-7079)

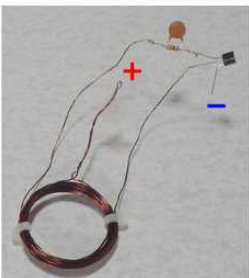
日光ボランティア・市民活動フェスタに参加

9月1日(土) 午前10時～午後3時
日光市今市文化会館・中央公民館・勤労青少年ホーム

ちょっとここ数年はご無沙汰だったボラフェス、今年の中ホール展示ブースに「子どもたちのためのソフトウェア体験」、「ワイヤレス送電」という内容で参加しました。「ソフトウェア体験」コーナーでは、本会会員でもあるソフト技術者Sさんたちが持参した、iPadのゲーム+プログラミングが好評でした。居場所や学びサポートで最近ブームの自走ロボ、左右両輪の動きをプログラムして思ったコースを走らせる「プロロボ」も子どもたちの興味を引きました。小学校高学年から中学生の参加を期待した「ワイヤレス送電」。参加が多かった年少の子どもたちにとっては、コイルを巻く作業が難しく、手伝いながら完成。線がなくても電気が伝わる不思議を感じてもらえたのではと思います。ワカモノフェスタには、このキットを用意して参加します ⇒

サイエンス・カフェ @ ワカフェス ワイヤレス送電キットの制作

豆電球は電池とつながっていないと光りません。電気が流れるには導線が必要です。ところが、振動する電流(交流)の性質を使うと、導線を使わなくても電気エネルギーを伝えることができます。この現象、「電磁誘導」は簡単な回路で実験できます。ぜひ、作ってみてください。



■ 電気を送る回路(送信器)

電線をぐるぐる巻いたものを「コイル」といいます。ホルマル線を15回巻き、途中で「タップ」をひねり出し、また15回巻いたコイルを作ります。左写真のように組み立て、部品をはんだ付けしてください。

■ 電気を受ける回路(受信器)

こちらはもっと簡単です。ホルマル線を30回巻き、その両端にLEDを取り付けるだけです。

■ さて、実験

送信器に電池をつなぎ、受信器を近づけると...

12月9日(日) 午前10時～午後6時

ワカモノフェスタ 2018

～ 何らかの形 何らかの形 何らかの形 何らかの形 ～



調整中

14:00～

基調報告: NPO法人 起立不耐症と起立性調節障害の会 理事長 高木 修造 氏

「朝、起きれない」「めまいや頭痛がひどくて動けない」などの症状で学校に行けなくなった高木さんはやがて病院で起立性調節障害という診断をされ、無理に学校に行くのではなく自分のペースで学校を選びました。起立性調節障害への理解を深める報告です。

(パネルディスカッション) 15:00～

パネリスト: 高木修造さん(起立不耐症と起立性調節障害の会)
パネリスト: 稲葉祐一郎さん(小山フリースクールおたるの家)
パネリスト: 宗後貴恵さん(フリースペースひよこの家卒業生)
コーディネーター: 中野謙作さん(栃木県若年者支援機構 代表理事)

12:00～

講演会: NPO法人 こうべユースネット 理事長 辻 幸志 氏

神戸市青少年会館館長。日本都市青年会議事務局次長。子ども・若者支援専門職養成研究所研究員。神戸市では社会教育委員や自殺対策推進協議会の委員等を兼任。日本における「居場所」実践の第一人者として内閣府の中央研修大会でも本年度、講師を務める。ユースワーカー。

～ お楽しみ企画 ～

- ☑ ボードゲーム
- ☑ ライブステージ
- ☑ バルーンアート
- ☑ 格闘技体験
- ☑ カフェ

とき: 2018年12月9日(第2日曜日) 10:00～18:00

会場: とちぎ青少年センター アミックス(宇都宮市駒生1-1-6)

参加費: 前売券300円、当日券500円 ※中学生以下は無料

県内関連団体による
分科会も企画中です♪

主催: ワカモノフェスタ実行委員会 共催: 一般財団法人栃木県青年会館
後援: 各教育委員会(申請中)、栃木県子ども若者・ひきこもり総合センター

お問い合わせ(ワカモノフェスタ実行委員会): wakaf11@gmail.com

☆ 活動日誌

- 7月27日(金) 通信「なんとなくのひろば・第52号」発行
- 7月27日(金) つくって食べよう! (ジャガイモチーズ焼き)
- 7月27日(金) 日光市ひきこもり支援連絡会 出席 (日光市役所)
- 8月7日(火) つくって食べよう! (フルーツポンチ・ジャガイモチーズ焼き)
- 8月24日(金) 居場所・夏休み開所終了
- 8月26日(日) ベリー会: 学習会
- 9月1日(土) ボランティアフェスタ・2018参加 (プログラミング、ワイヤレス送電)
- 9月5日(水) 第85回理事会
- 9月9日(日) ワカモノフェスタ実行委員会
- 9月10日(月) 茶話会 (第86回)
- 9月23日(日) ベリー会: 月例会
- 9月30日(日) ワカモノフェスタ実行委員会
- 10月6日(土) 川むしたんけん隊 (長畑川)
- 10月9日(月) 「学校の長期休業中開所にもなう委託金増額のお願い」市教委に提出
- 10月23日(火) なんにわお出かけ企画 (鹿沼CCVを訪問・直営レストランで昼食)
- 10月26日(金) つくって食べよう! (焼きそば)
- 10月28日(日) ワカモノフェスタ実行委員会
- 10月28日(日) ベリー会: 学習会

さくらそう関連の勉強会など 日光市相談支援専門員連絡会

- 7月25日(水) 6月15日県西圏域連絡会振り返り
 - 8月22日(水) 生命保険会社による「これからの日本」
 - 9月26日(水) 生活困窮者自立相談支援事業について
 - 10月24日(水) 主任介護支援専門員・相談支援専門員合同研修会について、他業種との交流
- 県西圏域相談支援事業者等連絡会
- 8月10日(金) 障害者自立訓練センター (駒生園) 見学
- 日光市障害者自立支援協議会 (事例検討会議)
- 6月14日(木)、7月12日(木)、8月8日(水)、9月13日(木)、10月11日(木)

木材の町、鹿沼市のCCVレストランは木のお皿
片隅の焼印ロゴが気になったので撮影
MIK = Made In Kanuma だそうです



川むしたんけん隊 10/6(土)

長畑川にて《今市の水を守る市民の会》との共同開催

今回は、落合西小学校の近くを流れる長畑川で「川むしたんけん」を行いました。9月は雨量が多かったため、長畑川の水量は、近くに住む方によると、「いつもの2倍以上」とのこと。そのため、本流から分かれた流れの場所を選び、午前10時頃から採集を始めました。

■ データ

10月6日(土) 10:00 日光市長畑 長畑川の小用地橋下
天気うすぐもり、気温22℃、水温18℃
流速50cm/秒 (本流は水量多く流れも速いので分流で計測)

■ 指標生物

水質階級Ⅰ: きれいな水

サワガニ、カワゲラ、ヘビトンボ、ナガレトビケラ

水質階級Ⅰ・Ⅱ (共通)

チラカゲロウ、タニガワカゲロウ

水質階級Ⅱ: ややきれいな水

カワニナ、コオニヤンマ、ヒラタドROMシ

水質階級Ⅲ・Ⅳ: 汚い水

指標になる生物は見つかりませんでした。

その他の生物 (川に住む生き物)

コカゲロウ、コカクツツトビケラ、オナシカワゲラ、
ナベブタムシ、トンボ (幼虫)、
カワトンボ、サナエトンボ、オニヤンマ、ヤンマ科

魚類 ホトケドジョウ、ドジョウ、カジカ

蛙類 トウキョウダルマガエル、カジカガエル



水質階級Ⅰは数も多く、カワゲラは10匹以上、サワガニは5匹、ヘビトンボも大型が3匹取れました。

このまとめからもわかるように、この日の小用地橋下の水質は「きれいな水」と判明。

その他、ホトケドジョウ、カジカガエル、ナベブタムシが見つかったことは注目すべきことと思います。それぞれ栃木県の絶滅危惧種に指定されているからです。なかでもナベブタムシは水中の溶存酸素量が多い場所、河川清流域の川底の細藻の中にもぐっている生き物だそうです。長畑の山々から流れ出てきた水がそれだけ新鮮ということではないでしょうか。

「川むしたんけん」のたびに、どんな生き物と出会えるか、ワクワクします。だから川の中は面白い。今回、県の南中部から参加してくれた小学生は川の生き物にとっても詳しい男の子達でした。彼らが大人になっても、この川のことを覚えていてくれたらこんな嬉しいことはありません。

中洲の草刈りや川に降りる梯子の設置など、地元のF様の多大なるお力を頂戴しました。誌面を借りて御礼申し上げます。

(今市の水を守る市民の会: 塚崎)

特定非営利活動法人 なんとなくのになわ 通信

〒321-1261 栃木県日光市今市378
電話 090-3227-7079 / email: info@nantonakuno.net
ホームページ <http://www.nantonakuno.net/>



こんな本はいかが？ その43:

原子・原子核・原子力 - 私が講義で伝えたかったこと -

山本義隆 著 2015年 岩波書店

理論物理学や科学史の分野で多くの著書を著している山本義隆氏が2013年春、高校生・大学生向けに行った講演記録です。17・18世紀、化学研究から生まれた「原子」という概念や周期律の発見にはじまり、19世紀末から20世紀初頭にかけての量子仮説、質量とエネルギーの等価性の発見、原子・原子核構造の解明、その直後に急速に進んだ核エネルギー開放までの流れを一気に知りたいという人におすすめです。

20年近く前、中学理科から「イオン」が除かれたことが話題になりました。現在中学校で使われている教科書には、イオンだけでなく、原子核を構成する陽子や中性子まで出てきます。原発事故による放射能汚染が現実となり、「放射性セシウム」、「ガンマ線」などが日常使われる時代に原子・原子核の基礎知識は必要と思う半面、教科書の「原子核は陽子と中性子からできている」という記述だけでは、無用な被ばくを避けるための知識として不足という気もします。とはいえ、あれこれ詰め込んで混乱するばかり。教える内容の割り切りは難しいものです。

さて、原子核に至る化学と物理の歴史を軸とし、そこに科学者のエピソード、著者の意見、ときには数式...と、この本はけっして読みやすくないありません。計算はていねいに解説されていますが、いきなり「移動に要した時間は Δt 」と書かれても、物理の記法に慣れていない人はここでつまづいてしまうだろうと思います。適当に読み飛ばして、「なるほど、こうやって分子が飛び交うイメージ、光量子の概念、原子内部の描像などを作っていたのか」と納得するのがうまい付き合い方かもしれません。

後半、20世紀の大きな戦争が科学に落とした暗い影についての記述が印象的です。科学の発達をもたらした、原爆、原子力発電についても具体的に解説しています。近い将来、コンピュータが人間を支配するのではという予測、殺人ロボットを兵器として認めるのかという議論が新聞に書かれる昨今、科学の「進歩」っていったい何だろうと考えている人が増えているように思います。(近頃は「進歩」ではなく、「進化」という言葉が目立ちます。なぜだろう?) 山本氏の近著、「近代日本一五〇年—科学技術総力戦体制の破綻—」(岩波新書)は考えるヒントになるかもしれません。こちらの本も手に取ってみたいはいかがでしょう。(手塚)

私たちの活動目的:

日光市とその周辺地区に居住する子どもおよび青少年等に対して、学習や自立のための支援活動と地域への啓発活動を行い、社会に出た後も継続性のある、支援と学びの場を作り出します。

私たちの事業:

- ① 子どもたちの自主性および自立性を尊重した居場所の提供および学びの場の運営
- ② 子どもたち一人ひとりに対応した、新たなカリキュラムや学習内容の開発
- ③ インターネットなどのIT環境を活用した学びの支援
- ④ 教育についての相談や情報提供活動
- ⑤ 学校外で育つ青少年の自立に関する相談および就労を支援する活動
- ⑥ 自然環境の中での学びを作り出し、自然環境保全の大切さを啓発する活動
- ⑦ 障がいの理解および啓発に関する企画運営事業
- ⑧ 第二種社会福祉事業の相談支援事業経営

会員について

- 正会員: 48
賛助会員: 19
団体会員: 4
入会金なし
年会費(一口)
正会員 3,000円
賛助会員
個人 5,000円
団体 10,000円



私たちの活動は会費と寄付金でまかなわれています。会員を継続し、応援よろしくお願ひします。会員は新たな事業の提案、会の事業の運営などに直接かかわることができます。みなさまの積極的な参加をお願いいたします。

なんとなくのへや

「今年はカメムシが多いね」という声をよく聞きます。10年も前だったか、物置にカメムシの大集団を発見して、追いつくのが大変だったことを思い出しました■平べったい体でどこにでも入り込み、集団で越冬することもあるこの昆虫。特有の臭いを出すためにいやがられ、「不快害虫」などという、きのどくな別名がついています。家の中で増殖するわけでもなく、人を噛んだりもしないので、そっと出て行ってもらうのがおだやかな対応なのでしょうが、「悪臭」のために嫌われ者になっています■個人的には、カメムシ臭はそれほど気分の悪くなるものとは思えず、くさい臭いという人には「うん、まあねえ」とか適当に反応していたところ、ある本に「カメムシの臭気は濃度が低いと、かぐわしい香水にもなる」という記述をみつけて、なるほどと思ったことがあります。東南アジアではカメムシ臭は「芳香」であるという話もあり、いま流行の「パクチャー」は和名で「カメムシソウ」。それなりに親しまれている匂いなのですね■とはいえ、果実の汁を吸い表面に小さな刺し傷を残すカメムシは果樹園にとってはまさに「害虫」です。その異常発生はもう50年も前から問題にされているとか。原因は温暖化などの気候変動もあるかもしれませんが、戦後行われたスギやヒノキの大規模造林、そして農地の放置によるイネ科植物の繁茂が大きく影響しているのと言われています。好む環境を人間が作り出し、カメムシ繁栄の基盤となつたらしい。自然はいろんな形で、人間の「やり過ぎ」にイエローカードを出しているような気がします。(T)